



2022年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年1月11日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ライフコーポレーション
 コード番号 8194 URL <http://www.lifecorp.jp/>



代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 岩崎 高治
 問合せ先責任者 (役職名) IR部長 (氏名) 宮田 幸一 TEL 03-5807-5111

四半期報告書提出予定日 2022年1月14日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年2月期第3四半期の連結業績（2021年3月1日～2021年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第3四半期	574,761	1.1	19,705	△6.8	20,222	△7.0	13,711	△5.0
2021年2月期第3四半期	568,314	7.2	21,150	158.5	21,750	149.4	14,426	164.9

(注) 包括利益 2022年2月期第3四半期 13,559百万円 (△4.9%) 2021年2月期第3四半期 14,257百万円 (157.5%)

(参考) 営業収益は、売上高と営業収入の合計であります。

売上高 2022年2月期第3四半期 557,313百万円 (1.1%) 2021年2月期第3四半期 551,233百万円 (7.2%)

営業収入 2022年2月期第3四半期 17,447百万円 (2.1%) 2021年2月期第3四半期 17,081百万円 (6.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第3四半期	292.55	—
2021年2月期第3四半期	307.82	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年2月期第3四半期	263,419	108,536	41.2	2,315.81
2021年2月期	268,307	97,560	36.4	2,081.61

(参考) 自己資本 2022年2月期第3四半期 108,536百万円 2021年2月期 97,560百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2022年2月期	—	30.00	—	—	—
2022年2月期（予想）	—	—	—	40.00	70.00

(注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2 2022年2月期（予想）期末配当金の内訳：普通配当 30円00銭 創業60周年記念配当 10円00銭

3. 2022年2月期の連結業績予想（2021年3月1日～2022年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	760,000	0.1	19,000	△30.6	20,000	△29.0	12,500	△29.9	266.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年2月期3Q	49,450,800株	2021年2月期	53,450,800株
② 期末自己株式数	2022年2月期3Q	2,583,260株	2021年2月期	6,583,138株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年2月期3Q	46,867,592株	2021年2月期3Q	46,868,171株

(注) 期末自己株式数には、「取締役向け株式交付信託」の信託財産として株式会社日本カストディ銀行（信託口）が保有する当社株式（2022年2月期3Q 90,300株、2021年2月期 90,300株）が含まれています。
また、株式会社日本カストディ銀行（信託口）が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めています。（2022年2月期3Q 90,300株、2021年2月期3Q 90,300株）。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結損益計算書関係)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、9月末に緊急事態宣言が解除されサービス消費等一部に回復がみられたものの、その動きは依然弱いといえます。世界の状況からわが国においても新型コロナウイルス感染症再拡大のリスクは払拭できない一方で、当該リスクに対する各種政策・施策の進展や海外で先行するウィズコロナ下での経済活動の正常化といった動きにより、景気の持ち直しも期待されます。

そのような経済環境の中、当社グループの事業領域である食品スーパー業界におきましては、新型コロナウイルス感染症によってもたらされた内食需要の高まりはあるものの陰りもみられます。個人所得、消費マインドの回復は限定的な中、ネット通販の拡大、食品宅配の拡大、垣根を超えた競争環境の激化に加え人件費をはじめとした各種コストが上昇し、企業運営を取り巻く環境は厳しさを増しております。

ウィズコロナの環境下、当社グループは地域住民のライフラインとしての使命を果たすべく、お客様・従業員の安全・安心を最優先に、チラシの折込を再開後も密を避ける施策をはじめ、様々な対策を講じております。また、外出自粛に伴う観光客の減少等の影響を受けた生産者様、外食産業様、メーカー様への協力の観点から、産地応援セール等を継続的に実施いたしました。

当第3四半期連結累計期間のその他の主な取組みとして、各種民間調査等で高評価をいただいておりますネットスーパー事業におきまして、システム面での更なる利便性向上のために株式会社10Xと協業し、初のモバイルアプリ版となる「ライフネットスーパーアプリ」の提供を3月より開始し順調にダウンロード数を獲得しております。配送面ではネットスーパー・来店宅配サービスにおける安定した高い品質の配送網を構築するために、間口ホールディングス株式会社と共同でラストワンマイルを担う新会社「株式会社ライフホームデリバリー」を4月に設立、6月より事業を開始し11月末現在、ネットスーパーで5店舗、来店宅配14店舗で稼働するなど事業を漸次拡大しております。

また、創業60周年と自社クレジットカード「LC JCBカード」の発行5周年を記念した特別企画を9月より実施し、カード会員数の拡大に努めております。

更に、当社が2019年9月より出店を始めたAmazonプライム会員向けサービスについては、配送地域を首都圏では、東京23区と都下7市、神奈川県8市、千葉県13市、埼玉県5市、近畿圏では、大阪府20市、兵庫県6市、京都府3市（それぞれ一部地域を除く）に拡大しております。

加えて、からだに優しい素材や製法、健康や自然志向にあわせたプライベートブランドである「BIO-RAL（ビオラル）」の商品開発・品揃えを強化するとともに、ナチュラルスーパーマーケット「BIO-RAL（ビオラル）」の店舗・ショップを新設しております。

新規店舗としては、3月に東日暮里店（東京都）、4月に溝口店（神奈川県）、9月に四条烏丸店（京都府）、本郷三丁目駅前店（東京都）、10月にナチュラルスーパーマーケットの3号店となるビオラルエキマルシェ大阪店（大阪府）、11月にセブンパーク天美店（大阪府）の6店舗を出店する一方、2店舗閉鎖いたしました。また、既存店舗の改装としては、滝谷店、二条駅前店、神田和泉町店、石神井台店、岸部店、葛飾鎌倉店、岡町店、塩草店、西大泉店他、合計17店舗でお客様のニーズの変化に対応した改装を積極的に行いました。

当社グループの業績におきましては、新規店舗、ネットスーパーなどのeコマース（EC、電子商取引）の拡大、「BIO-RAL（ビオラル）」等のプライベートブランド商品の強化、おいしさを追求した商品施策等の効果が寄与し、営業収益は、5,747億61百万円（前年同四半期比1.1%増）となるとともに、荒利率の改善により売上総利益は増益となりました。一方、販管費は、採用強化等に伴う人件費の増加に加え、新規出店に伴う賃借料、伸長しているEC強化等の物件費も増加したことから、営業利益は197億5百万円（前年同四半期比6.8%減）、経常利益は202億22百万円（前年同四半期比7.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は137億11百万円（前年同四半期比5.0%減）と、何れも前年同四半期を下回る結果となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりです。

(小売事業)

営業収益は5,740億56百万円（前年同四半期比1.1%増）、売上高は5,573億13百万円（前年同四半期比1.1%増）、セグメント利益は201億46百万円（前年同四半期比6.8%減）となりました。

なお、部門別売上高は、生鮮食品部門が2,410億35百万円（前年同四半期比2.7%増）、一般食品部門2,434億20百万円（前年同四半期比0.9%増）、生活関連用品部門482億27百万円（前年同四半期比4.3%減）、衣料品部門173億34百万円（前年同四半期比1.7%減）、テナント部門72億95百万円（前年同四半期比0.3%増）となりました。

(その他)

株式会社ライフフィナンシャルサービスの営業収益は17億87百万円（前年同四半期比2.9%増）、セグメント利益は76百万円（前年同四半期比43.2%減）となりました。

(2) 財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、2,634億19百万円と前連結会計年度末に比べ48億88百万円減少いたしました。

流動資産は、698億23百万円と前連結会計年度末に比べ48億44百万円減少いたしました。これは主として売掛金が19億30百万円増加した一方、現金及び預金が59億61百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、1,935億95百万円と前連結会計年度末に比べ43百万円減少いたしました。これは主として店舗の新設や土地取得などにより減価償却後の有形固定資産が8億31百万円増加した一方、投資有価証券売却による投資有価証券（投資その他の資産その他）が4億62百万円、長期貸付金（投資その他の資産その他）が5億27百万円、それぞれ減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、1,548億82百万円と前連結会計年度末に比べ158億64百万円減少いたしました。これは主として短期借入金及び長期借入金の合計が196億54百万円増加した一方、買掛金が245億53百万円、未払金（流動負債その他）が57億66百万円、それぞれ減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、1,085億36百万円と前連結会計年度末に比べ109億76百万円増加いたしました。これは主として利益剰余金が111億28百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年2月期の連結業績予想につきましては、2021年4月9日の「2021年2月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想からの変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の今後の当社グループの事業へ与える影響については依然合理的に見通すことが困難な状況にあります。特に本年度後半以降の業績見通しにつきましては、当社が現時点で想定し得る要素を可能な限り織り込んで作成しておりますが、今後の景気・個人消費動向を注視し、連結業績予想の見直しが必要となった場合には、速やかに開示することといたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,343	9,382
売掛金	5,524	7,454
商品及び製品	23,193	25,002
原材料及び貯蔵品	189	202
その他	30,417	27,781
流動資産合計	74,668	69,823
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	87,489	86,230
土地	38,774	39,256
その他(純額)	21,188	22,796
有形固定資産合計	147,452	148,283
無形固定資産	3,635	3,452
投資その他の資産		
差入保証金	23,321	23,663
その他	19,272	18,238
貸倒引当金	△41	△41
投資その他の資産合計	42,551	41,859
固定資産合計	193,638	193,595
資産合計	268,307	263,419
負債の部		
流動負債		
買掛金	68,466	43,912
短期借入金	2,150	28,850
1年内返済予定の長期借入金	12,647	10,301
未払法人税等	6,126	3,199
賞与引当金	2,595	416
販売促進引当金	1,884	1,895
その他	36,595	31,439
流動負債合計	130,466	120,014
固定負債		
長期借入金	24,113	19,414
役員株式給付引当金	36	36
退職給付に係る負債	3,256	3,211
資産除去債務	5,409	4,994
その他	7,463	7,211
固定負債合計	40,280	34,868
負債合計	170,747	154,882
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,004	10,004
資本剰余金	11,613	5,628
利益剰余金	86,595	97,724
自己株式	△9,914	△3,930
株主資本合計	98,298	109,426
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	375	213
土地再評価差額金	△1,114	△1,114
退職給付に係る調整累計額	0	11
その他の包括利益累計額合計	△738	△890
純資産合計	97,560	108,536
負債純資産合計	268,307	263,419

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
売上高	551,233	557,313
売上原価	384,178	385,681
売上総利益	167,054	171,631
営業収入	17,081	17,447
営業総利益	184,135	189,079
販売費及び一般管理費	162,985	169,374
営業利益	21,150	19,705
営業外収益		
受取利息	116	107
受取配当金	34	32
リサイクル収入	180	205
データ提供料	107	110
その他	398	278
営業外収益合計	837	734
営業外費用		
支払利息	168	141
その他	69	76
営業外費用合計	237	217
経常利益	21,750	20,222
特別利益		
投資有価証券売却益	—	249
受取補償金	262	—
受取保険金	4	—
固定資産売却益	2	—
特別利益合計	269	249
特別損失		
減損損失	247	161
固定資産除却損	326	86
店舗閉鎖損失	59	71
新型コロナウイルス感染症による損失	※1 82	※1 66
投資有価証券売却損	—	7
転貸損失	134	—
特別損失合計	851	394
税金等調整前四半期純利益	21,168	20,078
法人税、住民税及び事業税	7,485	6,398
法人税等調整額	△743	△31
法人税等合計	6,741	6,367
四半期純利益	14,426	13,711
親会社株主に帰属する四半期純利益	14,426	13,711

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)
四半期純利益	14,426	13,711
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△183	△162
退職給付に係る調整額	13	10
その他の包括利益合計	△169	△151
四半期包括利益	14,257	13,559
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	14,257	13,559

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 新型コロナウイルス感染症による損失

新型コロナウイルス感染症拡大により、店舗などにおいて発生した商品廃棄損、消毒費用や賃料減免によるテナント支援等を新型コロナウイルス感染症による損失として特別損失に計上しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年3月1日至2020年11月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他(注)2	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額(注)3
	小売事業				
営業収益(注)1					
外部顧客への営業収益	567,649	665	568,314	—	568,314
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	1	1,071	1,073	△1,073	—
計	567,650	1,737	569,388	△1,073	568,314
セグメント利益	21,615	134	21,750	—	21,750

(注)1 営業収益は、売上高と営業収入の合計であります。

2 「その他」はクレジットカード事業等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年3月1日至2021年11月30日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他(注)2	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額(注)3
	小売事業				
営業収益(注)1					
外部顧客への営業収益	574,054	707	574,761	—	574,761
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	2	1,080	1,082	△1,082	—
計	574,056	1,787	575,843	△1,082	574,761
セグメント利益	20,146	76	20,222	—	20,222

(注)1 営業収益は、売上高と営業収入の合計であります。

2 「その他」はクレジットカード事業等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。